



みずみどり

2019年 3月15日 第131号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会  
<http://mizumidori2.eco.cocacn.jp>E-mail : [mizumidori@nifty.com](mailto:mizumidori@nifty.com)

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&amp;fax3969-7124

# 自然と友だちになろう

「自然と友達になろう」という提案です。自然の中で遊ぼうということ？うーん、ちょっと違います。うまく説明できませんが、私は自然に対して敬意を持って付き合っていきたいと考えています。

エコポリスセンターの未来塾の実習で、保育園の園児達と自然観察会をすることになりました。場所は自然の貧しい前野公園、季節は冬—2月8日。硬い土の広場、葉を落とした木、茶色い土、枯れた芝・・・どう考えても自然観察にふさわしい条件ではありませんが、園児達と春を探しました。寒々とした中に所々緑の草があり、梅の花が咲いていました。梅の木の傍でいい匂いがする、とずっと立って梅を見ている。子どもはすぐ飽きると思っていたので意外でした。後でお母さんに教えてあげるといいなあ、と思いました。花木が植えられているのでつぼみがついています。あれを見てごらんとハナミズキのつぼみを指さすと、「ニンク



だ」と一人が言うと  
口々に「ニンクだ」と  
言い、確かにニンク  
に似ています(写真)。  
いくつかの冬芽や花  
のつぼみを観察しまし  
た。春になったら花を  
見てほしい、寒いとき  
に見た蕾を思い出して  
くれるといいなあ。カ  
サカサに枯れた芝生  
のなかで若草やロゼッ  
ト(冬越しの野草)を見  
つけて次々と教えてく

れました。ささやかでも、こんなことから身近な自然と友達になれそうに思いました。

「自然は大切だ」とみんな思っています。ではどうすればよいの？ 都会で何が出来るか私たちは考えていきたいと思えます。

### 自然と友達になるために

いたばし水と緑の会は、1997年年4月に活動を始め、今年で22年目になります。身近な自然を保全すること、失われた自然を取り戻すことが会の目的です。

20年前に美術館の横に小さな湧き水の池をつくりました。コンクリートでなく草が生える土の池です。オタマジャクシやヤゴがすめる水辺を目指しました。ところが完成したらすぐに、キンギョやコイ、ザリガニ、ヒメダカ、ウシガエルなどが放され、キンギョやザリガニ釣の遊び場になりました。私たちの意図しない形で子どもも大人も自然と友達になっていました。遊びたい子ども達には申し訳ないが、放流された生きものを捕獲し、「赤塚トンボ池」と名前をつけ、ここは自然の池としてそっと見守ってほしいと訴えてきました。

2000年、トンボ池の裏山、城址の一角に、生き物がすめる自然の草地をつくりました。城址の草地は年4回草刈りますが、自然の草地は、刈り過ぎず放置しすぎないよう私たちが手入れをしています。「生きものすめる草地」の趣旨看板をつけましたが、ピンとこなかったようで、「バッタ広場」という名前にしました。バッタ広場にはまちなかの公園とは思えないくらい多様な生きものがあります。捕まえてもってかえる子どももいます。観察会に来た子どもが、飼育のむずかしいヒキガエルもどうしても欲しいと持ち帰り、後日別の場所に捨てられたこともありました。子どもが虫をつかまえてもちかえる、それが子どもにとってのいい自然体験だと言われても、私は悲しいです。大人達は、自然はいいねえ、とか、子どもの頃遊んだ風景を思い出すと言う人もいるし、トンボ池やバッタ広場を理解してくれる人も増えています。私たちが目指すのは、まちなかのサンクチュアリ(立ち入り禁止の保護区)ではありません。公園で生き物達を見るとうれしくなるし、一生懸命生きている姿を見て、生きものにやさしい気持ちを育てていきたいです。

自然というと、板橋区の花ニリンソウを思い浮かべる人も多いでしょう。赤塚大門に咲くニリンソウの群落は見事です。その陰できれいでもない地味な花もあります。生きものにもチョウやカブトムシやタマムシのような有名な虫もいれば、名前も覚えてもらえない小さな虫、嫌な奴と嫌われる虫もいます。植物は土から水分とミネラルをもらい、太陽のエネルギーをもらって植物のからだをつくり、動物は植物に蓄えられた栄養をもらって生きています。人間も自然界から栄養をもらって生きている動物で、いくら優秀でも食べるものを人工的につくれません。もっと自然に対して感謝しなければならないところです。

2月2、3日に開催された「環境なんでも見本市」に、いたばし水と緑の会は、「自然と友達になろう」のテーマで出展しました。自然のなかに身を置くとリフレッシュしますね。遠くまで出かけなくても、すぐ足元から自然を感じる事が出来ますよ、という提案です。展示では私た



ちのフィールドである赤塚城址の生き物達を写真で紹介しました。オマケのつもりで拾った生きものの「なごり」も展示しました。セミの死骸・幼虫の抜け殻、チョウ・カマキリ・カメムシ・カナヘビなどの抜け殻、タマムシの死骸・モグラの剥製。なぜか虫の嫌いな子どもも「さわっていいですか」と言っておそろおそろ触ります。ありふれたセミの死骸や抜け殻にも触ります。驚きました。写真より実物ですね。それだけ実体験が少なくなっているのですね。

昔の暦では、今年は3月6日が啓蟄(けいちつ)です。啓蟄とは虫やカエルが土の中から動き始めるという意味で、3月第1土日に開催される赤塚梅まつりのころに、カエルが産卵のためにトンボ池に集まり、人気です。

水と緑の会は、今年は梅まつりに参加しなかったのですが、3月3日の寒い日、卵塊が2つ、梅まつりが終わった3月5日は卵塊が4つ以上、カエルも数匹いました。お天気もよく梅を見に散歩に来た人達が、「もうカエルが来てるかな」と立ち寄り、フェンス越しにのぞいていきました。近く方はここにカエルがやってくることを知っています。カエルのすめる自然環境の大切さを感じてもらえるといいなあと思います。

環境教育では、ドングリで工作をします。ドングリを触ったこともない子ども達もいるそうです。教科書やテレビの世界でなく、本物に触れることが少なくなっているのですね。身近にドングリの木に登ったり、木の実を拾える環境がほしいですね。



## 赤塚城址 のんびり自然観察会のごあんない

赤塚城址一帯の季節の自然を感じ、動植物を発見し、教え合いながら、ゆっくり歩く「のんびり自然観察会」です。子どもさんも一緒にどうぞ。でも生きものは持って帰らないでね。小雨でも実施。どなたでも参加できます。

日時: 毎月第2日曜日 10時～11時半

集合場所: 板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

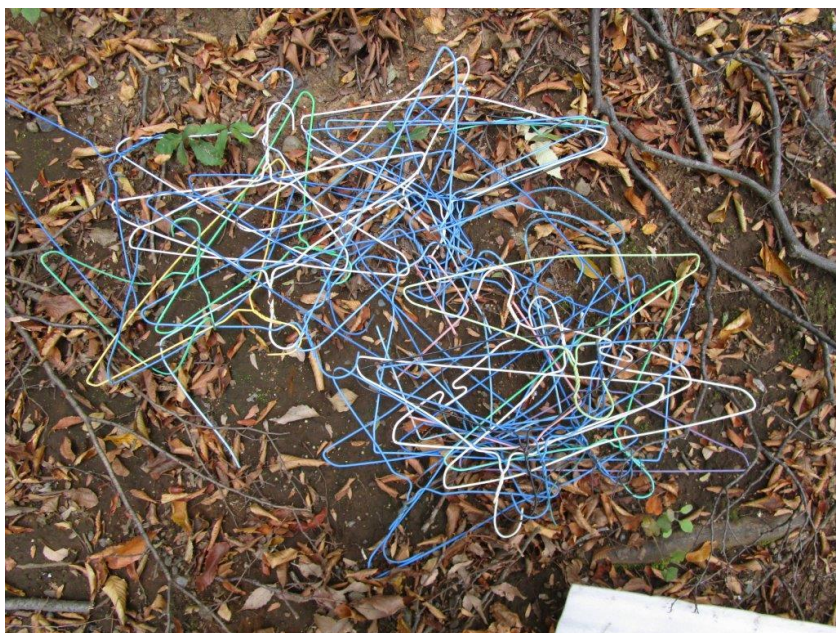
コース: トンボ池→郷土資料館→竹林→赤塚5丁目の森→城址→バッタ広場(昆虫観察)  
(行くところは季節や日によって変更あり)

参加費: 無料(保険には加入しません)

連絡先: 坂本 090-4618-1295

## カラスは早めに準備している

昨年11月19日、前野町の日暮台公園の斜面林になにやら青いものが見えるので、近付いてみると針金のハンガーがあちこちに散らばっていました。まだ繁殖の季節でもないのに、早々と巣の準備をしているのですね。針金ハンガーや作業用の針金など、集めたら結構多かったので写真をパチリと撮って、片付けま



した。カラスは能率を考えていますね。とりあえず、ハンガーをその辺に落としておいて、後から集め、それを、巣を作る木の枝に運ぶのでしょう。産卵のため巣の材料を早くから準備していたカラスは巣材を処分されてがっかりしているでしょう。

東京都ではカラスを駆除しています。物干し竿に針金ハンガーを放置しないほうがよいと思います。

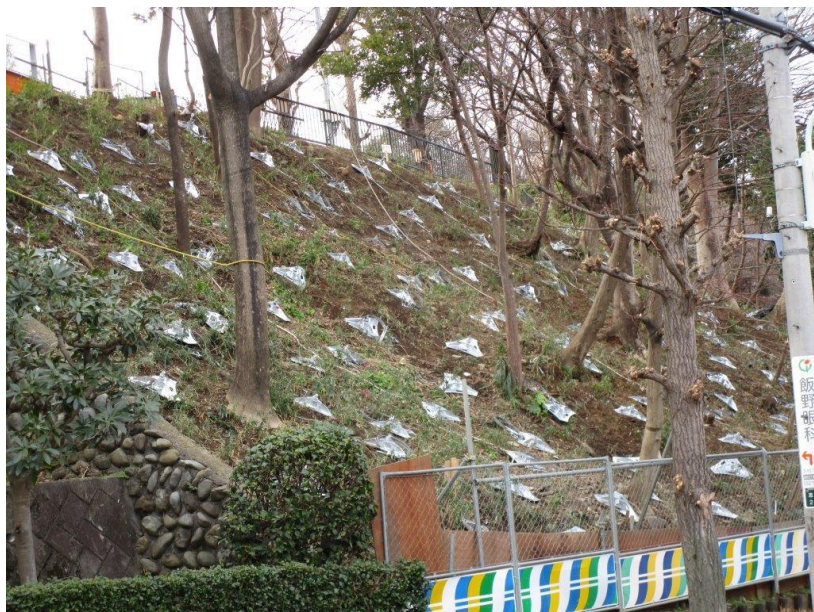
# 志村城山公園の崖の安全対策！！

志村城山公園（板橋区志村2丁目17）をご存じですか。志村3丁目駅から見える崖線にあり、熊野神社の裏山に続く公園です。城山公園は土砂災害のおそれのある地域に指定されており、昨年夏から安全対策のための崖の補強工事が始まりました。

工事のお知らせの看板を見ると、補強工事とは金属の杭を打って、崖を補強する工法で、樹木の根よりも、金属の方が安全だという判断なのでしょう。施工時の金属の強度は計算できても、年月が経過して錆びたり、劣化したりしないのでしょうか。工事のおしらせには、ササを刈り、掘削して鉄筋608本を注入するとありましたが、刈ったのはササだけでなく木もバサバサ切っていました。

城山公園の御成塚通りに面した東側は急勾配ですが、急勾配なので林内の手入れはほとんどされず、急斜面の森だったように思います。思っただけで、しっかり見ていなかった。緑や自然は、気がついたら消えていて、その前はどうかだかなかなか思い出せないものです。

東側の工事後の写真（右上）を見ると、地面にササが生えていて、地盤は大丈夫そう、そのうち細かい木も生えてくると期待しましょう。



写真左は、城山公園を上から見たところ。2018年3月に撮影。散歩していて、「あれっ、何か違う」と思って撮った写真です。

奥の入りにくい斜面はそのまま残っています。手が届くところは手が入ります。必要かどうかは別。草や木を切りすぎでは思うことが多々ありました。たくさんあったシラカシの芽生えがしばらくすると刈られて、ツルツルの地面になっていたり等々・・・





危険な崖地に指定されているのだから、もう少し心配りしてほしいのにと、ハラハラして見ていました。

写真左は、多分集会所裏の斜面あたり。工事開始直後。2018年9月。

左中は同じ場所の完成後で、補強された杭。

下は斜面上り口付近からとった完成後の様子です。



写真を撮っていたら、通りがかりの人が、「これで本当に自然が戻るのかね」と不満げでした。

ここは北向きの斜面です。ツルツルになってしまった地面では元の樹林が再生するかわかりません。

安全でも、ただのはげ山にならないよう、今後を見守っていくしかありません。

板橋区立の公園にある崖線樹林地は、私たちにとって身近な自然ですが、危険な崖地に指定されている公園がいくつもあり、このままでは、一つ、また一つと、このような公園が増えていくことになります。



行政は、斜面を保護してくれる下草や低木を大事にして、緑の崖線を次の世代に残す責任があります。そのためには、どうすればよいか、しっかり検討してほしいと思います。

ところで、城山公園の崖下からは湧水が出ています。城山公園は湧水保全地域に指定されています。湧水のすぐ上の裏山（城山公園）はかつてすごいはげ山でした。この湧水と崖線の自然を守るために、「城山公園四季の会」が結成され、斜面の下草刈りを中止してもらい、落葉をためて腐葉土にしてそれを禿げた斜面に戻す活動を続け、緑の斜面が戻りました。ササが茂り、むき出しの地面が見えなくなったのを見て私は感動しました。

板橋区環境課では、この志村城山公園の湧水、不動の滝、不動の滝向かいの湧水の3カ所の湧水を保全するため湧水保全地域を指定しています。

その湧水にとって、去年は散々の年でした。

2018年6月、工事課で板橋区の湧水に指定されている不動の滝向かいの湧水のある斜面をコンクリート擁壁にしました。工事後、水量は以前の1/2に減ってしまいました。

湧水保全は板橋区の緑の基本計画にもうたわれています。工事をした担当課は、湧水保全地域だということを認識していませんでした。

同じ頃、公園課では板橋区の湧水に指定されている（東京都の名湧水にも指定されている）不動の滝の裏山の木を伐採・枝切りしてスカスカにしました。もともと少ない湧水がさらにチョロチョロになりました。担当者に手紙を送り、後日電話したところ、明るくして草が生えるようにした、という返事で、私の手紙に対しては精査しているということでしたが、どういう結論になったのかはわかりません。

そして、2018年夏から城山公園です。湧水保全地域としての斜面保護対策は検討されなかったのでしょうか。

同じ板橋区の中でも所管が違ふところなるのでしょうか。残念です。

板橋区が所有する自然の崖や緑地が、改変され、コンクリートになってしまってから、苦情を言っても元に戻せません。公園や緑地は近隣住民だけのものではなく、区民の財産です。公園改修も含めて、関係する環境課に周知することはもちろん、充分検討してほしい、それから小さな記事でよいので区報に計画段階でお知らせしてほしいと思います。

## 予告 勉強会をします。

### 「日暮台公園の崖線樹林地を守るために」

関心のある方はご連絡ください（090-4618-1295 坂本）

# 活動のお知らせ

運営委員会：3月23日（土）12：30～13：30

2019年度の活動計画を検討します。

4月27日（土）12：30～13：30

作業・観察会の後に報告や活動内容などを相談します（ラーメンしらかば）。

連絡先；坂本（090-4618-1295）

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

5月18日（土）の予定

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田（3969-7124）まで

## 1 赤塚ピオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ

3月23日（土）10：00～11：30 トンボ池の手入れ（長靴必要です）

カエルの卵はどうしてる？場合によっては水路を修理します。

4月27日（土）10：00～11：30 バッタ広場クズの根、外来種の抜き取り

集合は赤塚トンボ池前（板橋区立美術館そば）（予定を変更する場合があります）

雨天の場合は中止または延期します。連絡先：事務局または坂本（090-4618-1295）

## 2 赤塚城址のんびり自然観察会

子どもさんも一緒にどうぞ。でも生きものを持って帰らないでね。小雨でも実施。どなたでも参加できます。連絡先：事務局または坂本（090-4618-1295）

4月14日（日）10：00～11：30

5月12日（日）10：00～11：30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入しません）もってくるもの：あれば双眼鏡、虫眼鏡、

## 3 日暮台公園樹林地の観察

4月6日（土）10：00～11：30 5月4日（土）10：00～11：30

日暮台公園前集合

連絡先：事務局または坂本（090-4618-1295）

### ●ピオトープボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、生き物のすめる水辺（赤塚トンボ池）や草地（赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、自然樹林地の定点調査などを行っています。作業や観察会で身近な自然を発見するのが楽しいです。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。